

## 平成30年度第2回行政評価委員会（しごと部会）会議録

### 1 開催日時

平成30年9月20日（木） 午後3時30分～午後5時

### 2 開催場所

生涯学園都市会館 2階第1学習室

### 3 出席者

#### (1) 委員 2名

影山一男委員（部会長）、八木浩員

（欠席：高橋勉委員、高橋徳好委員、高橋誠委員、上田直輝委員）

#### (2) 説明者（施策主管課） 2名

農政課：藤田康悦課長補佐、上原拓洋主査

#### (3) 事務局（施策及び事務事業担当課） 2名

秘書政策課：瀬川千香子主査

財政課：菅原由紀子主査

### 4 議題及び報告事項

市が実施した施策評価のうち、花巻市行政評価委員会の評価対象施策である「農業生産の支援」について評価を行った。

#### (1) 施策主管課による説明、質疑応答

#### (2) 委員会の評価結果集約

### 5 議事録

#### (1) 施策主管課による説明、質疑応答【主な意見・質疑等】

影山一男委員：「施策の目指す姿」に向かう上での課題である農業に必要な労働力の確保は簡単なことではないと感じる。農業従事者数については、何らかの指標に表れているのか。事務事業の中の指標や一般的な統計数値でも良いのであればわかりやすい。

藤田康悦課長補佐：国の農林業センサスの販売農家数と平均年齢についてご紹介する。平成22年は7,981人、67.6歳、平成27年は6,581人、68.5歳と農家数の減少と高齢化が進んでいる。

影山一男委員：振興作物栽培面積と農家人口は相関関係にあるものか。例えば振興作物栽培面積が減ると労働力の確保は必要なくなるものか。課題は「労働力の確保」であるのに対して成果指標は「栽培面積」であることがわかりにくい。また、施策の目指す姿には「農畜産物」とあるが、成果指標には畜産の部分がない。事務事業評価シートで補っていることか。

影山一男委員：「4施策を構成する事務事業一覧」の「施策への貢献度」の「直結度」がわ

かりにくい。例えば、1番の有害鳥獣被害対策事業については、事務事業評価シートにおける対象が「市内全域の農林産物生産者及び鳥獣被害対象者」とあるが、試作評価シートにおいては「間接・少数」と判定されている。

藤田康悦課長補佐：実際の捕獲や追い払いの対象が、結果的に一部地域であったことから、「間接・少数」と判定したものである。

瀬川千香子主査：事務事業評価シートにおける対象が「市内全域・・・」である以上、施策評価シートにおける対象が「間接・少数」とは考えにくい。事務事業評価シートと施策評価シートの記載を統一するよう記載要領を徹底する。

影山一男委員：同じく「施策への貢献度」の「成果」がCの事務事業については、「5施策を構成する事務事業の検証」欄のいずれかに記載するルールのようにあるが、番号1の有害鳥獣被害対策事業、15番の花巻米生産確立支援事業、16番の水産多面的機能発揮対策事業について記載がない。記述しづらい内容であることは理解するが。

瀬川千香子主査：本来は、成果がCの事業は何らかの改善が必要という前提であるため、いずれかに記載することとしている。

八木浩委員：捕獲頭数の目標値が高すぎるのではないか。

藤田康悦課長補佐：ほかの計画で定めている値である。

影山一男委員：成果がCであっても花巻市が悪いわけではない。採用する目標値の再検討が必要ではないか。

影山一男委員：「3成果指標の達成状況」の「転作過剰を解消するための主食用米の作付け推進により・・・」の記述について、専門的であり一般にわかりにくい。

藤田康悦課長補佐：「転作過剰を解消」とは、減反政策の実質廃止に伴い、主食用米の作付けが少なすぎたため、もう少し作付けを増やそうとしたということ。

影山一男委員：その結果、主食用米の作付けが増え、人手と時間がかかる付加価値の高い園芸作物を推奨しても農家に選択してもらえなかったということか。収益性の高い振興作物の作付けがこの施策の柱であるはずではないか。

藤田康悦課長補佐：コメの消費が減って価格上昇が見込めないことから、魅力あるコメ以外の作物に誘導していきたい。

影山一男委員：園芸作物はブランド化しないと難しいのではないか。

藤田康悦課長補佐：花巻市では幅広く作付している。これは強みでもあり、「これぞ」というものがないという意味では弱みでもある。全国に認知してもらうためにも、ある程度絞って振興していくことが必要。

影山一男委員：作期の分散なども検討しているようだが。

藤田康悦課長補佐：タマネギについては機械化が可能であり、大規模に手掛けている法人があるため、そういったところを通じて推進していく。

八木浩委員：白金豚のように畜産部門ではブランド化が進んでいるが。

影山一男委員：人口減少の中、振興作物の栽培面積を拡大すると生産過剰、「豊作貧乏」になるおそれはないか。そういったときにブランド化できていれば生き残ることができるため、より明確化したほうが良いのではないか。

影山一男委員：労働力の面で、先ほど説明のあった「農福連携」は単純作業のイメージがあるが、ブランド化には専門家が必要ではないか。

藤田康悦課長補佐：農作業全般において、一定割合で補助的作業がある。

影山一男委員：将来的に水不足から農業事態ができなくなるような心配はないか。

藤田康悦課長補佐：今のところ県内では心配ない。

八木浩委員：スマートアグリ推進事業については、どういった内容なのか

藤田康悦課長補佐：GPS付きのトラクター導入への補助、実演会を通じた体験などである。機械が高い、狭い農地では効果を実感できないことが難点。

八木浩委員：タマネギに導入する機械はどういったものか。

藤田康悦課長補佐：収穫、定植、カット、箱詰めなどが可能。人手のかからない作物といえる。

八木浩委員：スマートアグリ推進事業の対象は水田か。

藤田康悦課長補佐：トラクター、田植え機、コンバイン、水管理センサーなど基本的に水田が対象である。GPSにより機械の運転が自動化され、作業員の負担が軽減される。

## (2) 委員会の評価結果集約【施策評価検証シートの整理】

- 「◎前年度評価の振り返り」において前年度の「Check＝評価」⇒「Action＝見直し」が機能しているか

影山一男委員：労働力の確保の面でICTの活用が必要という課題を導き出し、反映できていることから、機能しているといえるが、施策の目指す姿との関係性からいうと、労働力の確保以外の課題もあったのではないか。ブランド化を含め付加価値の高い園芸作物の導入などについても言及すべきであったのではないか。

- 「5 施策を構成する事務事業の検証」が的確に行われているか

影山一男委員：成果Cの事務事業について言及がない。事務事業の成果指標の目標値が高すぎるものがあり、再検討すべきである。

- 「3 成果指標の達成状況」の「(達成状況に関する背景・要因)」の分析が的確に行われているか

影山一男委員：主食用米作付けの推進の要因について、ヒアリングでは説明があったが、施策評価シートの文章からは読み取ることができないため、記載すべきである。

- 「6 施策の総合的な評価」が的確に行われているか

影山一男委員：「(課題)」において「園芸を中心とした振興作物の生産減少が懸念されることから・・・」とあるが、各作物の作付面積などの細かい資料がないため、市民が見てわかりやすい表現とは言えない。振興作物が多すぎるため、一部のことなのか、全体のことなのか、どの作物に重点を置いているのかかがわからない。

- 「シート記載内容全般について」

影山一男委員：記載要領を熟読しないと施策評価シートだけでは一般にわかりにくい部分がある。「◎前年度の評価の振り返り」について、「(前年度評価時の今後の方向性)」は「前年度評価時の重点的取組事項」、「(反映状況)」は「取組状況」など項目名を

わかりやすいものとすべき。また、「4施策を構成する事務事業一覧」の「施策への貢献度」の「直結度」に関しては、「対象」や「意図」などがわかりにくい。成果だけでも良いのではないか。

瀬川千香子主査：「直結度」も「成果」も低ければ施策の目指す姿の達成のために効率的とは言えない事業ということ。「直結度」に関しては、Cであっても直ちに「廃止すべき事業」というわけではなく、市民ニーズはあるが、ごく一部の人や地域に限られるなどを指す。将来的には予算の優先度につなげられると良いと考えている。

影山一男委員：この施策評価検証シートだけではそういったことがわからないため、表記の工夫が必要である。